Vol.234

ユニークベニュー TAKAOKA オン まちなかステージ

琵琶で語る異世界のものたち

●錦心流薩摩琵琶

薩摩琵琶は桑でできた楽器の張られた絹の絃を、主に黄楊の撥を使って演奏する和楽器です。和楽器ならではの「間」や「揺り」と言われる響きをもって、勇壮な曲から悲曲まで一つの楽器で表現します。
錦心流琵琶の流祖である永田錦心が、その音色にのせ流麗な語り口で演奏し、大正・昭和初期に一世を風靡しました。
今回は、変化物の「耳なし芳一」「羅生門」「茨木」の3曲目を演奏いたします。

令和8年6月21日(日)
14時開演 13時30分開場

場所 LittleWing ウイング・ウイング高岡
1階交流スペース

入場無料

ユニークベニュー TAKAOKA オン まちなかステージ
ライブ配信公開中!
YouTube
当日14時からお楽しみください!

まじめに文化やってます。
TAKAOKA CULTURAL FOUNDATION
公益財団法人 高岡市民文化振興事業団

【実施主体】高岡市／末広開発(株)／(株)高岡ステーションビル／オタヤ開発(株)／(公財)高岡市民文化振興事業団
【協力】Crossover Project

お問合わせ:(公財)高岡市民文化振興事業団 事業課 〒933-0023 富山県高岡市末広町1番7号 高岡市生涯学習センター3階
TEL:0766-20-1560 FAX:0766-20-1562 MAIL:shimin@takaoka-bunka.com

*** 内 容 解 説 ***

1．耳なし芳一（ほういち）

琵琶　松田 恵水

1185年3月24日午前6時、源平両軍が壇の浦にて開戦します。

そして此の時、満6歳の安徳帝はじめ平氏一門は、海の藻屑となり、平家は滅亡しました。

その後、壇ノ浦近く、赤間が関阿弥陀寺の周辺で、火の玉や怨み声が見聞きされたと、噂が立ったのでした。

この曲は、小泉八雲が採集した怪談の一つを基に作られたものです。

2．羅生門（らしょうもん）

琵琶　有澤 結水

頃は道長全盛期。貴族は太平の世で優雅に過ごす一方、下々は飢餓に泣き、道には餓死者が放置されるという世の中でした。

そのような時に、羅生門に鬼が出るという噂を聞き、朝廷を守護する源頼光の四天王のひとり渡辺綱は、真偽を見届け標（しるし）の札を立てようと、羅生門に向かいます。

標を立て帰ろうとした時、黒雲と共に鬼が現れます。綱は烈しく戦い、鬼の腕（かいな）を切り落として、綱は武名を挙げたのでした。

3．茨木（いばらき）

琵琶　嶺　瑛水

羅生門で鬼の片腕を斬り取った渡辺綱は、鬼に仕返しされぬように、門戸を閉じて読経し、忌（いみ）明けを待ちます。

忌明けの前日の夜、伯母と名乗る老婆が突然現れます。そして中に入れよと言い、屋敷に入った後は、今評判の腕を見せろといいます。

この老婆こそまさしく、腕を取り返さんと来た茨木童子（いばらきどうじ）なのでした。

出演者について

加納（かのう） 瑛恵（えいけい）：ナレーション担当。

松田（まつだ） 恵水（えすい）：前富山支部長杉本紫水に師事する。

有澤（ありさわ） 結水（ゆうすい）：富山県邦楽協会代議員。富山新聞高岡プラザ講師。

嶺（みね）　瑛水（えいすい）：錦心流琵琶富山支部長。高岡市文化芸能館にて教室。